

競 技 上 の 注 意

審判長 田中 孝一

本大会は現行の日本卓球ルールを適用して実施する。
但し、日本リーグの取り決めによる特別ルールを併用して行う。

※競技用服装及び試合前の練習時間（1分間）については日本リーグの取り決めによる。

※リーグ戦における順位の設定は、本連盟大会運営規程による。

[注：全対戦間の成績比率（得点÷失点）による。]

1. 卓球台、ボール、ラバー、ラケット、競技用服装について

- 卓球台は、Nittaku 製「クレスト 25 クリーン」を使用する。
- 使用球は、Nittaku 「プラ 3 スタープレミアム 40+（ホワイト）」を使用する。
- 選球は行わない。審判員が準備したものを使用する。
- ラバーは ITTF または JTAA が公認したものでなければ使用できない。
- 外国製ラケットで JTAA の公認マークのないものを使用する場合は、試合開始前までに「外国製ラケット使用許可書」を提出して審判長の許可を得るものとする。
- ゲーム中にラケットを破損した場合は、主審又は審判長の判断でスペアラケットか、プレー領域内で手渡されたもので、すぐにプレーをしなければならない。
- 競技用服装は、なるべく同系色による対戦を避ける。
- 競技用服装以外に、サポーター、リストバンド、ヘアバンド、スパッツなどを着用することができる。これらの着用物にメーカーロゴ等の表示がある場合には、ロゴが JTTA 公認用具指定業者のものであり、全面積が 12 cm²以下のものが 1 ヶ所であればその使用が認められる。
- アンダーシャツは、競技用服装から大きくはみ出さないようにすることで着用が認められる。若干のはみ出しは、メーカーの商標、ロゴが外部から見えないようにすること。

2. タイムアウトについて

- 競技者（組）または指名されたアドバイザーは、1 マッチを通じて 1 分以内の「タイムアウト」を 1 回要求することができる。
- タイムアウトの要求は、ゲーム中のラリーとラリーの間のみに行うことができる。その場合、競技者（組）は両手で「T」を示し、ベンチ（アドバイザー）からは「T」カードを用いて要求を示し、主審にその意思を明確に伝えること。
- 競技者（組）とアドバイザーの意思が異なった場合は、競技者（組）の要求が優先される。

3. バッドマナーについて

- 競技者またはアドバイザーは、観客に不快感を与えたり、相手競技者に対し不当な影響を与えたり、ゲームの評判を落とすようなクセや態度、審判長や審判員の指示を無視する行為を行った場合、バッドマナーとして判断され、相手へのポイント、競技者の退場、失格等のペナルティーが科される。

- ポイントが決定した後、すぐにサービスを出さない、なかなかレシーブの構えに入らない等の「スロープレー」も、競技のスピードアップを無視する行為としてバッドマナーの対象になる。
- 主審が競技者の行為に対してバッドマナーとして判定した場合、最初はイエローカードによる警告、2 回目はイエローカード、レッドカードを掲げて相手に 1 ポイントを与え、さらに違反行為が続く場合には、相手に 2 ポイントが与えられる。さらなる不正行為には審判長が判定を下す。

4. アドバイス、抗議について

- アドバイザーは、1 名のみが競技者にアドバイスできる。
- アドバイザーは、原則として競技者と一緒にベンチに入ることが望ましい。
- 競技者は、それによって競技が遅れさえしなければ、ラリー中を除いていつでもアドバイスを受けることができる。
- 主審がアドバイザーの行為に対してアドバイス違反として判定した場合、審判長の判断により退場を含むペナルティーが科せられる。
- 抗議は、競技者のみが行うことができる。
- 主審の事実判定（入った、入らない、触れた、触れてない等）に対しては抗議できない。

5. 競技及び進行について

- シングルス及びダブルスの第 5 ゲーム目は、6 - 6 から開始する。
- ダブルスの第 5 ゲーム目は、第 1 ゲーム目と同じ組合せ（例：第 1 ゲーム目サーバー A に対してレシーバー A が返球）とする。
- 競技者（組）は、試合開始時間に注意し、遅れないように指定のコートに集合すること。
- ベンチについては、組合せ番号の若いほうが外側となる。
- 進行の都合で、コートあるいは試合時間を変更することがある。とくに、試合時間が予定時間より早くなっている場合、予定時間より 10 分前に開始することがあるので、放送には十分注意すること。

6. 一般注意事項

- 競技エリア内での濡れ雑巾の使用は禁止とする。
- 体育館内は全面禁煙のため、喫煙は所定された場所を利用すること。
- 貴重品、荷物は各自で管理すること。
- 競技中に起こったケガ、事故については審判長判断で応急処置（10 分までの中断）が認められる。傷害保険を掛けているのでその後の処置については保険会社と処理する。